# 「孫育て」紹介冊子作製

## 岡山大大学院 大井准教授 講演会などで配布

共働きの家庭が増える中、祖父母に楽しく「孫育て」に参加してもらおうと、岡山大大学院保健学研究科の大井伸子准教授（助産学）らが小冊子「孫育てBOOK～助産師から祖父母世代の方へのメッセージ」を作り、講演会などで配布している。

冊子はA5判16ページ。孫を迎えるにあたって▽祖父母の役割▽子育て 今と昔▽子育てで知っておきたいこと―の4項目に分けて世代間ギャップを埋めるための情報をまとめた。

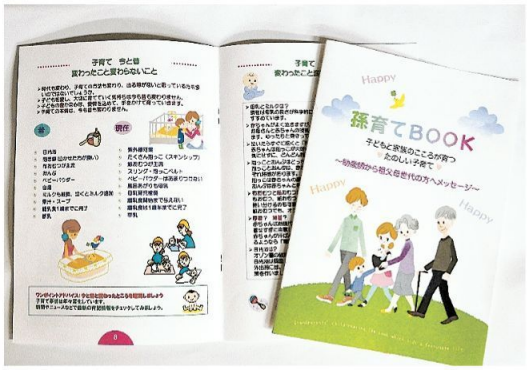
ワークライフバランス（仕事と生活の調和）が推進され、父親の育児参加が求められている現状や、産後の母親が陥ることのある「産後うつ」の症状などを紹介。祖父母世代では推奨された日光浴だが、現在は紫外線対策をして外出するのが好ましいといった具体的事例を挙げて〝育児の常識〟の違いを説明している。「子育ての主役はママパパ」「祖父母は心のオアシス」などアドバイスも添えた。

大井准教授は「戸惑いがちな育児の今と昔を整理した。家族で楽しく、安心して育児をする一助になれば」と話している。

◇

岡山大子育て支援センター「子どものこころが育つ 楽しい孫育て」が3月17日午後1時半から、岡山市北区石関町、岡山大まちなかキャンパス城下ステーションで開かれる。

子育ての今と昔の違いなどをまとめた小冊子「孫育てBOOK～助産師から祖父母世代の方へのメッセージ」で助産院を開く長谷川喜久美さんが講師。2人の講演をはじめ、グループワークとしておむつ交換やだっこの仕方などの実習もある。定員20人。参加無料。問い合わせは大井研究室（086―235―6848）。



大井准教授と倉敷市

2015年2月27日 山陽新聞朝刊 36ページ （C）山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。